

株式会社フコックス

取締役営業本部
副本部長
瀧田 雅一氏



葛生営業所
所長
小倉 隆氏

東京ロジセンター
センター長
平出 和孝氏

輸送事業をベースにノウハウを積みあげ 企業体質を強化

8月号の「運輸事業経営の革新に迫る」でご紹介した株式会社フコックスは、セメント輸送からスタートし、3PL事業、環境事業を新たに加えることで、業容の大規模な転換・拡大を実現された物流企業です。「輸送をベースにお客さまのニーズにこたえることで、おのずと循環型の物流サービスを提供できるようになった」と語る同社の取締役営業本部副本部長 瀧田雅一氏と、現場力の強化に取り組まれている葛生営業所所長 小倉隆氏、東京ロジセンターセンター長 平出和孝氏にお話をお聞きしました。

環境事業で 鍛えられるノウハウ

― 御社の新規事業への転換では、環境事業への進展が目覚ましいですね。

瀧田 環境事業に取り組み始めてもう15年ぐらいになりますがお客さまのリサイクルへのご要望に応じ、私どもの環境事業の中身も変わってきました。その中でも、もっとものびているのは汚染土壌の分野です。

当社ではもともと、セメント業界の輸送を手がけ、その関連から土壌改良などに使われる固化材を運んでいました。この輸送業務をベースに、土壌の分析や工場を設計されるお客さまからの仕事が自然と広がったわけです。そういう意味では、私どもがこれから取り組もうとしている事業を十分にご理解いただき、また、ご協力いただけるお客さまが身近に数多く存在するなど、とても恵まれた環境にあったといえます。

― 環境事業に必要な従業員教育はどのように行われているのですか。

瀧田 まずは、環境にかかわる法律を勉強してもらうことが第一ですが、廃棄物などの処理方法

についてもいろいろな方法がありますので、現場で実務を体験することが一番の勉強でしょうね。私どもの営業スタッフは、現場での積み込みから、場合によってはクルマに同乗して降ろし場所の確認まで行います。つまり、全部の仕事の工程を一人でできるようにしています。

ほかの事業分野では、口コミで事業の拡大がはかれることも多々ありますが、環境事業に限っては、営業スタッフの能力に大きく左右されます。たとえば、土壌にはさまざまな廃棄物が混ざっているといたような、土壌改良に関する正しい知識がなければ、お客さまと商談することさえもかないません。そこで、環境事業の中心を担う営業所では、廃棄物処理に従事できるよう、教育を拡充していく体制にあります。

― 専門的な知識を持った5人の営業スタッフが常に動いていることもあり、当社の組織としてもウエイトが高くなっています。

瀧田 やはり私どもの事業の基

製造から保管、流通加工、 配送までを二元的に管理

― 食品事業ではとくに高いレベルの品質確保が求められますね。

平出 東京ロジセンターは、冷凍・冷蔵・常温の3温度帯の倉庫を備えた食品に関する一大物流拠点であると同時に、食品の製造から保管、流通加工、配送まで一貫した作業を行う製造拠点でもあります。

当センターから出荷された商品は、そのままの状態です。店頭を経て消費者の食卓に並ぶことになり、つまり、私どもが消費者に一番近い位置にいるわけです。ここは常時45人ほどで稼働していますが、その責任の重さをスタッフ全員が常に意識するようにしています。そのため、業務の品質向上に向けた各種講習会を定期的に開催し、日ごろから安全・衛生に対する意識づけを徹底しています。

― 安全・衛生面における現場での人材育成は、どのように行われていますか。

平出 まずパートさんの採用時から、安全・衛生面での作業手順マニュアルを徹底して教育していただきます。また方が、センターに持ち込まれる食材（次加工品など）に

異物の混入などがあれば、現物を写真に撮りメーカーに送って検査を依頼します。そのとき、スタッフ全員で写真を見ることで情報を共有し、安全に対する意識を高めるようにしています。

― 輸送における安全の向上はどのように行われていますか。

瀧田 食品の輸送は、グループ会社の「富國運輸」が行っています。24時間体制で配送していますので、安全をより徹底するため、ドライブレコーダーを導入しています。2台のカメラを装備しており、運転席も映りますので、乗務員さんの業務状態もわかり、運行管理に役立っています。

デジタルタコグラフで 事故防止を徹底

― 粉粒体事業の中核となる、栃木県・葛生営業所の業務内容をお聞かせください。

小倉 葛生営業所は事務職員の方が5人、乗務員さんが18人で、トレーラー10台、14トン車8台、協力会社さんの車両10台ほどで運営しています。セメント工場内にある拠点として、ここから首都圏へ製品の輸送と、帰り荷としてセメント資材の輸送も行います。乗務員さんの仕事内容には、

過去から積みあげ、取り組んできたすべてのビジネスの要素が、実は3PLのための布石だったと考えています。



私どもが消費者に一番近い位置にいるわけです。このことをスタッフ全員が常に意識するようにしています。



本は3PLにあります。この3PLには、流通の各セグメントに対する精通した知識と拠点網の充実、加えてすべてをシステム化できる技術力が要求されます。私どもが過去から積みあげ、取り組んできたすべてのビジネスの要素が、実は3PLのための布石だったと考えています。一般貨物の輸送から始まり、倉庫、流通加工と進み、静脈物流、さらに廃棄物処理まで手がけるようになりました。お客さまに喜んでいただけるよう問題解決のお手伝いをしていくうちに、いろいろなサービスを提供できるノウハウが蓄積されてきたわけです。

営業スタッフは、こうした強みをお客さまに提案できなければなりません。当社が営業を一本化しているのもそのためです。実際、多様な業務を総合的に提案する場合、料金などの契約については難しいものがあります。事業内容にも、一般的な物流サービスに加え、産業廃棄物の収集運搬処理事業や特定建設業などもあります。そこで、充実した社内研修を実施するだけでなく、外部講師による3PL講習、専門的な技術講習などにも積極的に参加してもらい、人材をさらに育成していきたいと考えています。



大切なのは、デジタルタコグラフのようなシステムでカバーすると同時に、乗務員さんに自ら安全への意識を高めていただくことです。



輸送だけでなくタンク上での作業などもあるため、ひとつ間違えば命にかかわるといった危険な面があります。それだけに、熟練した乗務員さんが多く、平均年齢も40歳を超えています。定着率は高いです。

— 事故防止への取り組みについてはいかがですか。

小倉 安全運行に関しては、5年前から全車に導入したデジタルタコグラフの活用を柱としています。デジタルタコグラフそのものは、急発進・急加速の防止、アイドリングストップに有効で、その結果、燃費が10数%改善しましたし、排気ガスも抑制されていると思います。点数評価での活用も経済面で大きな効果を発揮しますが、それ以上に、安全面を重視しています。輸送事業にとって、やはり安全が一番大事ですから、それだけ注意が必要です。とくに、スピードや車間距離などの運行状態を細かくチェックし、改善指導を徹底しています。

配車担当者と乗務員さんがきちんとコミュニケーションを取ることも大切です。現場での会議では、ヒヤリハットなどをテーマに、事故を未然に防ぐ工夫と情報の共有

を行っています。こうしたさまざまな取り組みによって、事故を減少させることができました。さらに、地域への責任という視点から、安全パトロールや、地元の警察署とともに学校に向向いて、交通安全のデモンストレーションなども行っています。

— 乗務員さんの人材育成に向けて現場での活動についてお聞かせください。

小倉 大切なのは、デジタルタコグラフのようなシステムでカバーすると同時に、乗務員さんに自ら安全への意識を高めていただくことです。どれだけよいシステムを構築しても、肝心の乗務員さんが自分からその気になつてくれないと、効果は出ません。

たとえば、スピードをオーバーした乗務員さんに対しては、点数評価だけでなく私どもで直接面談し、そのときの業務状況を詳しく聞き、今後の改善へ向けた指導をします。そのときにもっとも配慮している点は、どのようにして乗務員さんのモチベーションを高め、いかに日々の取り組みを業務に効果的に反映するかということです。管理面をあまり前面に押し出すと、かえって乗務員さんの意欲を

そぐことにもなりかねません。そのため、厳格な管理体制の中で本人の自発性を尊重していく、パランスも大切だと思つて、いつも乗務員さんに接しています。

やる気を引き出し、一人のミスを全員で考え共有する風土へ

— 葛生営業所の今後の課題についてはいかがでしょうか。

小倉 悪いところを見つけたら、お互いに注意し合えるようなフランクな雰囲気をつくりたいと思つています。そのためには、乗務員さんだけでなく、事務職員の方もいっしょになって日ごろから声をかけ合うことが大切です。一人が起こしたミスでも、全員でいっしょに考える方がわかまりがなく、問題解決のノウハウも皆で共有できます。

また、現場としては乗務員さんに対する点数評価をもっと細分化して、ボーナス査定に反映するなどの方法で、やる気を引き出すことも大切です。これからは若い人が増えてきます。彼らはいかに育て、長所をのびせるか、それが私の役割だと思つています。

— 本日はありがとうございました。



葛生営業所



東京ロジセンター

Corporate data
株式会社フコックス
 ■創 業 昭和11年(1936年)
 ■資 本 9,350万円
 ■本 社 東京都江東区佐賀1-1-12
 ■従業員数 300名(グループ全社)